

「秋の祭典！ 3.5時間の激走Ⅱ」



お見事！ 逆転勝利！！ #35



連続タイトルへ視界良好 #14



連続3位表彰台 #12



今シーズン自己最高位 #34

K 耐久東海シリーズ第4戦は、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにて行われ、26 台のチームが初秋の三河湾に集結した。

前回第3戦に続き、今回の第4戦はサマースペシャルとして、いつもより30分ほど長い3.5Hとなっており、ポイント獲得のチャンス。9月終盤とはいえ暑さの残るサーキットでは、それ以上の“アツイ戦い”が期待される。

午後の天気も雨の心配はなく、暑い中にも少しだけ秋の気配が感じられる陽がコースを照らしている。

「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

デッドヒートを続ける#14「ガレージイシヤマTTストウディ」と、#100「HAC もらいものビート」、同ポイントから第3戦で#14が優勝で、一歩前に出た格好。しかしながら、#100も2位につけくらいついている。今回もこの2チームの争いか、はたまた思わぬ伏兵の登場か、新規格3台を含む8台による争いだ。

■予選

予選クラストップは今回も#14「ガレージイシヤマTTストウディ」タイムは1' 10.363。2戦連続で今シーズン3回目のクラストップ。2番手には#35「JKレーシングユーロビート」が1' 10.705で付ける。3番手にはKNOからクラスチェンジをした#51「EUROUレーシングアルト」1' 10.727、4番手には#12「ファニススピードビート」が1' 11.035、ランク2位の#100「HAC もらいものビート」は1' 11.565で予選5番手からの追い上げを狙う。

以下6番手には#34「JKガチャピントウディ」1' 11.868、7番手#717「Team Jatsun アルト」1' 13.503、8番手#83「G-FLUX ルブロスミラ」が1' 15.695という順位でスターティンググリッドに並んだ。

■序盤

スタート30分までは義務ピットは使用できない時間帯。このステイントでは#14「ガレージイシヤマTTストウディ」がトップを守る。すぐ後ろに#35「JKレーシングユーロビート」がつけ早くも激戦の予感がする、3番手#12「ファニススピードビート」までが同一周回だ。

4番手#100「HAC もらいものビート」、5番手#34「JKガチャピントウディ」、6番手#51「EUROUレーシングアルト」、7番手#717「Team Jatsun アルト」までが第2集団を形成。8番手#83「G-FLUX ルブロスミラ」は離されずについていきたい。

■中盤

中盤戦でもトップをしっかりとキープするのは#14「ガレージイシヤマTTストウディ」、トップへの挑戦権をかけて#35「JKレーシングユーロビート」、#100「HAC もらいものビート」、#12「ファニススピードビート」がしのぎを削る。

#34「JKガチャピントウディ」、#51「EUROUレーシングアルト」もくらくが、#717「Team Jatsun アルト」、#83「G-FLUX ルブロスミラ」は周回数伸びてこないのが気がかり。

Race Report

■終盤

日が少しづつ陰り始めたゴールまで残り1時間、#14「ガレージイシヤマTTSTウディ」がトップをキープ。そのあとは依然混戦、#100「HAC もらいものビート」が2位に上がり、#35「JKレーシングユーロビート」と#12「ファニススピードビート」もビート同士のバトルをしながら追い上げを開始。

義務ピット終了後の3時間経過では、トップこそ#14「ガレージイシヤマTTSTウディ」だが、#35「JKレーシングユーロビート」が同一ラップに迫る追い上げ、3番手は#12「ファニススピードビート」、4番手も#100「HAC もらいものビート」でビート軍団がトップに襲いかかる構図。

■最終結果

最終的にこのバトルを制したのは、#35「JKレーシングユーロビート」。逆転で今シーズン2勝目！2位は悔しい#14「ガレージイシヤマTTSTウディ」、今シーズン3勝目は逃したものの、ランキングはトップをキープ。3位は#12「ファニススピードビート」で2戦連続3位。

以下4位は#34「JKガチャピントウディ」、5位#83「G-FLUX ルブロスミラ」、6位#717「Team Jatsun アルト」、最下位は終盤にトラブルで失速した#100「HAC もらいものビート」。#51「EUROUレーシングアルト」は残念ながらリタイヤ。

■総評

連勝こそ逃したものの#14「ガレージイシヤマTTSTウディ」がしっかりと首位をキープ、連続チャンプへ余裕をもって最終戦に臨めるか。#100「HAC もらいものビート」は一步後退、しかし逆転での3年ぶりのタイトルへの望みはつないだ。ランク3位は#35「JKレーシングユーロビート」、無得点と優勝を繰り返し安定感には欠けるもののツボにはまった速さは流石、シリーズを飛び切り面白いものになっている。注目は新規格勢、クラスチェンジの#51「EUROUレーシングアルト」はリタイヤに終わったものの予選3番手など光るものを見せ、#717「Team Jatsun アルト」、#83「G-FLUX ルブロスミラ」も着実に速くなっている。最終戦から来シーズンに向けての新規格車の動向にも注目だ。



速さを増してきた新規格ミラ #83



新規格バトルも見せてくれた #717



逆転タイトルへかける #100



クラスチェンジでKNNへ参入 #51





直接対決を制して 4P 差に詰め寄った #25



ランクトップで最終戦へ #66



さすがのレース巧者ぶり！戦連続表彰台中



オレンジが夕日に映える #225

KNCクラス（軽NAのクロードクラス）

第3戦を終えて、上位3チームが10P差の中にひしめく混戦となっているKNCクラス。どのチームも優勝や表彰台を獲得する力のあるチームぞろいだけに、この第4戦で抜け出すことができるかに注目が集まる。シリーズ上位を含み5台がエントリー。

■予選

予選トップは#25「アカミネコマル2トゥディ」1'08.290、第1戦、第2戦に続き今季3回目の予選1位から2戦ぶりの勝利を目指す。予選2位は#66「IMWTゥディ」1'08.910、現在ランクトップでその差を広げたい。予選3番手は#3「周平ビートご声援ありがとう号」で1'09.043 速さは見せるもののツキがない流れを変えたい。4番手は#225「ぐっちち松本車体ビート」1'10.465 でランキングは3位、今季ここまで優勝こそないがしぶとい走りでも上位にくらいついている。予選5番手は唯一の新規格車#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」1'13.314、速さでは一歩劣る新規格車だが、開幕戦で優勝などそのポテンシャルは侮れない。

■序盤

最初のスプリントをトップでいくのは、#66「IMWTゥディ」、続いて#225「ぐっちち松本車体ビート」、#25「アカミネコマル2トゥディ」、この3台がトップ争いを展開。4番手は#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」、#3「周平ビートご声援ありがとう号」は5番手だが少しペースがよくない。

■中盤

中盤戦も上位3台の争いは続く。1時間半経過で#25「アカミネコマル2トゥディ」が81Lapで首位、#225「ぐっちち松本車体ビート」が80Lapで2位、3位は#66「IMWTゥディ」78Lapで続き、4番手#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」も77Lapと伸ばしてきている。心配なのは#3「周平ビートご声援ありがとう号」で73Lapと少し水をあげられたか。

上位3台のトップ争いに新規格エッセがしぶとく食らいつくという構図が続く。#3「周平ビートご声援ありがとう号」は2時間過ぎにクラッシュに巻き込まれる形で88Lapでレースを終えてしまう、今回も不運に見舞われてしまった。

■終盤

終盤になって頭一つリードしたのは#25「アカミネコマル2トゥディ」、マージンを広げながら最後のスプリントに向かう。それに続くのは#66「IMWTゥディ」、どこまで追い上げられるかが見どころ。その一方で3位争いが激化、#225「ぐっちち松本車体ビート」と#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」同一Lapでヒートアップ。先行#225を#81が猛追する格好で白熱する表彰台をかけた争いはゴールまでわからない。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

秋のバトルを制したのは、#25「アカミネコマル 2トゥディ」第2戦に続く今季2勝目をマーク、コースアウトしてしまった前線の雪辱を晴らした。2周差の2位には#66「IMWTゥディ」、連勝はならなかったがしっかりと2位に入りランキング首位をキープ。激しい3位争いを制して表彰台の一角に滑り込んだのは、#225「ぐっちち松本車体ビート」で今回もまたレース巧者ぶりを見せつけた。#225は開幕から全戦で表彰台にのっている。惜しかったのは#81「パイオニア・ワコズ・エッセ」で3.7秒差まで追い込んだが、あと一歩及ばず4位、しかしながらそのしぶとさはさすがだ。



惜しい！ 追い上げはお見事！ #81

■総評

この結果、タイトル争いはより混戦になってきた。#66「IMWTゥディ」は90Pでトップを守ったが、優勝した#25「アカミネコマル 2トゥディ」が4P差に詰め寄る。3位#225「ぐっちち松本車体ビート」も9P差で食らいついており、戦前の予想である”どこかが抜け出すか”とは真逆のより混沌としたシリーズ争いとなった。

さあ次戦は今季最終戦、真の王者が決まるその瞬間を見逃すな。



今回も不運に見舞われてしまった #3





前戦の”倍返し!?”で逆転タイトルを狙う



初タイトルへは譲れない



初参加で3位表彰台!



岡田編集長も奮闘したがリタイヤ

KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

第3戦終了時移転でのランキングは#23「チームミニ」が、#38「デモリッションエグゼ」に8P差という一騎打ち。第4戦はこの2チームを含めた5台がエントリー。

■予選

予選トップは、今季初出場の#223「スクランブルリンダトゥディ」が1'05.599、久しぶりの出場ながら速さを見せる。2番手は現在ランクトップ#23「チームミニトゥディ」1'05.858、3番手は#38「デモリッションエグゼトゥディ」1'06.938で離されまいと続く。4番手は#10「HOT-K CADCARS ミラ」1'10.956、そしてトラブルによりあまり走れなかったが予選最後尾で#11「川晋工芸エッセ By CADCARS」となった。

■序盤

序盤から快調に飛ばすのは#23「チームミニトゥディ」、ランキングトップの実力を見せつける。#38「デモリッションエグゼトゥディ」もくらいついての直接対決。#10「HOT-K CADCARS ミラ」と予選で出遅れた#11「川晋工芸エッセ By CADCARS」もまずまずの走りで上位進出を狙う。残念なのは予選トップを獲得した#223「スクランブルリンダトゥディ」、オープニングラップにボンネットが開いてしまうトラブル、事故なく何とかピットまでたどり着けたものの5Lapでリタイヤとなった。

■中盤

中盤戦は前戦に引き続いて#23「チームミニトゥディ」と#38「デモリッションエグゼトゥディ」の一騎打ち。2時間を経過して、両車ともに94Lap。まさに第3戦のリピートを見ているようだ。

■終盤

最終ステイントに入って前に出たのは、#38「デモリッションエグゼトゥディ」。1Lap差で#23「チームミニトゥディ」、3位には#11「川晋工芸エッセ By CADCARS」、#10「HOT-K CADCARS ミラ」は99Lapでリタイヤ。

■最終結果

今回は#38「デモリッションエグゼトゥディ」が1Lapの差をつけて、#23「チームミニトゥディ」に競り勝った。初登場の#11「川晋工芸エッセ By CADCARS」が3位表彰台。

■総評

毎戦僅差のバトルが見もののこのクラス、次戦でいよいよ1年間のバトルに決着。3P差はあってないようなもの、最終決戦を見逃すな。



二次アクシデントがなかったのは不幸中の幸い





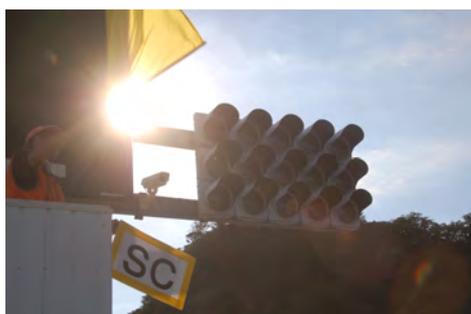
待望の今季初優勝！！ #330



ランキングは2位に #112



ミラを3位に押し上げ初表彰台 #21



KTCクラス（軽過給機のクローズドクラス）

第4戦には6チームがエントリーのこのクラス、FR、FF、オープン、スーパーチャージャーなどさまざまなマシンが集まっている。シリーズ争いは2年ぶりの戴冠を目指す#392「Zammers ヴィヴィオ」を軸に#112「白須賀会カプチーノ」、#330「SiRiO カプチーノ」といったカプチーノ勢、さらには第3戦で念願の初優勝を飾った#93「藤枝マリンダイビングアルト」がどう絡むかが見どころとなっている。

■予選

予選トップは#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'06.910、第3戦で優勝し波に乗ったか初めてのクラストップ。2番手には2戦連続表彰台中の#330「SiRiO カプチーノ」1'07.248でこちらも好調をキープ。3番手はランク3位で食らいつく#112「白須賀会カプチーノ」1'07.724 がつけ形勢逆転を狙う。

4番手に#392「Zammers ヴィヴィオ」1'07.987、この辺りは同一クラスが密集し、予選から激しい争いが始まっている。5番手はマシンをミラに代えKNOから移ってきた#21「BJR ミラアヴァンツァート」1'11.042、6番手は開幕戦以来の出場となる#4「JTEKT シルバーコペン」1'12.139。

■序盤

序盤レースをリードするのは#330「SiRiO カプチーノ」、それを#392「Zammers ヴィヴィオ」と#112「白須賀会カプチーノ」が追う展開。少し間をあけて#4「JTEKT シルバーコペン」と#21「BJR ミラアヴァンツァート」も周回を重ねる。

前戦優勝で、今回も予選クラストップからスタートした#93「藤枝マリンダイビングアルト」だが、トラブルに見舞われわずか11Lapで戦列を去ることとなってしまった。上り調子で来ていただけにまことに残念なリタイヤだ。

■中盤

レース半ばを迎えても、#330「SiRiO カプチーノ」が首位を守る。#112「白須賀会カプチーノ」が2番手につけカプチーノがワンツー体制。#392「Zammers ヴィヴィオ」が3番手を追走するが、ランクトップもありここは無理をしない作戦か。#21「BJR ミラアヴァンツァート」と#4「JTEKT シルバーコペン」もまずまずのペースで周回を積み上げている。

■終盤

終盤2時間半時点での順位は、#330「SiRiO カプチーノ」が105Lapでトップ。2位には#112「白須賀会カプチーノ」1Lap差の104Lap。3位に上がった#392「Zammers ヴィヴィオ」は103Lap、#21「BJR ミラアヴァンツァート」は101Lapで4位、#4「JTEKT シルバーコペン」が95Lapで5位というオーダー。午後4時を回った西浦の夕日はすこしずつ赤みを増してきている、最後のステイントに入る、気を引き締めていきたい時間帯だ。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

最後の最後に SC が入ったこのレース、安定した走りで制したのは#330「SiRiO カプチーノ」、ほぼ完璧に近い勝ち方で今シーズンの初優勝。2 位には#112「白須賀会カプチーノ」が入り開幕戦以来の表彰台。3 位はマシンチェンジで KTC に移ってきた#21「BJR ミラアヴァンツァート」が嬉しい初表彰台。4 位は#4「JTEKT シルバーコペン」で今季初ポイントを獲得。

5 位は終盤のトラブルで周回数が伸びなかった#392「Zammers ヴィヴィオ」、連続表彰台は途切れたもののポイントは上積みし、シリーズ首位は堅守。

■総評

数字上は相変わらず#392「Zammers ヴィヴィオ」が有利で、2 位の#112「白須賀会カプチーノ」に 15P の差をつけている。前戦優勝の#93「藤枝マリンダイビングアルト」はリタイヤでタイトル戦線からは惜しくも脱落。かわって#330「SiRiO カプチーノ」が満点 GET でランキング 3 位に浮上、タイトルへの挑戦権を手にした。

リタイヤ無得点がかつとも避けるべきなのは言うまでもなく、予選結果をみてもわかるとおり、各チームごとの差がないこのクラス。残る最終戦で笑うのはどのチームか。



コペンは 4 位 #4





ほぼレースを支配した #192 は完勝！



数字上は有利 #777



KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

総合優勝も狙えるこのクラスではあるが、第4戦のエントリーは2チームと少々少なめ。しかしこの2チームは今シーズンの年間タイトルを争うチームであり、どちらも負けられない戦い。その分バトルは濃厚だ。まだまだ暑さの残るサーキットで行われる、いわば真夏のどつきあい、最後に立っているのはどっちだ。

■予選

予選トップ総合のポールを獲得したのは#192「DXLメビウスアルトワークス」でタイムは驚異の1'03.786でぶっちぎり。その横に#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が1'05.555でつけフロントローに並ぶ。第3戦では#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が3秒台を出しており、今回は#192「DXLメビウスアルトワークス」がやり返した格好、すでにノーガードの打ち合いか。

■序盤

序盤から#192「DXLメビウスアルトワークス」が飛ばしに飛ばず、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」も後を追うが、なかなかその差は縮まらない。

■中盤

#192「DXLメビウスアルトワークス」は中盤戦に入っても手綱を緩めず、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」を引き離しにかかる。#777も総合2位と決して遅くないが、じわじわと引き離される。ピット戦略で追いすがるシーンもあるが、今日の#192「DXLメビウスアルトワークス」は隙を見せない。

■終盤

終始2~3Lapのギャップをもってレースをコントロールする#192「DXLメビウスアルトワークス」、レース中の最速ラップも3秒台を記録するなど終始速さを見せつける。#777「ナルミファクトリーアルト1号車」も4秒台のラップを並べるが及ばない。シリーズランキングでは上位にいる#777「ナルミファクトリーアルト1号車」にとって気を付けるのはトラブル、ここは無理せずしっかりとゴールを目指す。

■最終結果

今日は完勝の#192「DXLメビウスアルトワークス」、第3戦に続いての連勝、総合優勝で速さを見せつけた。#777「ナルミファクトリーアルト1号車」も総合2位だが、今日の相手は速かった。

■総評

連勝で勢いに乗る#192「DXLメビウスアルトワークス」だがその差は12P、数字上は逆転タイトルは可能だが、まずは次戦勝つこと。一方の#777「ナルミファクトリーアルト1号車」はリタイヤ無得点は絶対に避けなくてはいけないが気分的には有利だ。しかしながら何が起きるかわからないのがレース、このどつきあい最後に笑うのはどっちだ。

